

一般財団法人Rubyアソシエーション

2011年度 第1回通常理事会 議事録

日 時 : 2012年3月22日(木) 16:00~17:00

場 所 : 松江オープンソースラボ (松江市朝日町478-18松江テルサ別館2F)

理事総数 : 3名

出席理事 : 3名 (内テレビ会議出席1名)

(本人出席) 松本行弘(理事長)、前田修吾(副理事長)

(テレビ会議出席) 井上浩

出席監事 : 今岡正一

事務局 : 横田早百合、杉原健司(支援スタッフ)、福田一斎(支援スタッフ)

定款第39条の規定により出席理事から松本行弘理事長を議長として選出し、松本行弘理事長が議長席につき、当財団の理事現在数3名中、定款第40条第1項及び第2項の規定に従い、議長を含め議決に加わることのできる理事3名の出席により定足数を満たしたので本理事会は有効に成立した旨を宣し、テレビ会議システムにより出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認のうえ議事に入った。

第1号議案: 「2012年度事業計画書」

定款第7条第1項に基づき、「2012年度事業計画書」について、議長の指名により前田修吾副理事長からの説明の後、全会一致で原案のとおり可決した。

- ・ 2012年度事業計画書 (資料1)

第2号議案: 「2012年度収支予算書」

定款第7条第1項に基づき、「2012年度収支予算書」について、議長の指名により前田修吾副理事長からの説明の後、全会一致で原案のとおり可決した。

- ・ 2012年度収支予算書 (資料2)

以上この議事録が正確であることを証するため、定款第43条の規定により、代表理事理事長(松本行弘)と出席監事(今岡正一)は、次に記名押印する。

2012年3月22日

上記の通り相違ありません。

一般財団法人Rubyアソシエーション

代表理事理事長 松本 行弘

監事 今岡 正一



第1号議案

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2012年度 事業計画書」

2012年4月1日から

2013年3月31日まで

2012年3月31日

一般財団法人 Ruby アソシエーション

目次

はじめに	2
1 組織体制	2
1) 理事	
2) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業 公募型開発プロジェクト	2
2) 情報発信事業	3
①Web 活用	
(1) 利用事例の紹介	
(2) 技術情報の紹介	
②RubyWorld Conference 2012	
③ビジネスセミナー	
3) Ruby 技術者認定試験事業	3
4) 事業者認定事業	4
①Ruby アソシエーション認定システムインテグレータ制度	
②Ruby アソシエーション認定サポートサービス制度	
③Ruby アソシエーション認定クラウドサービス制度	
5) 認定事業者支援事業	4
6) 標準維持事業	4
7) 協賛会員事業	4
8) 寄付事業	5
3 関係機関との連携	5
1) 経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構	
2) 松江市、島根県及び中国経済産業局	
3) 日本 OSS 推進フォーラム	
4) その他、関係機関	
4 公益認定申請	5
5 その他関係資料	5

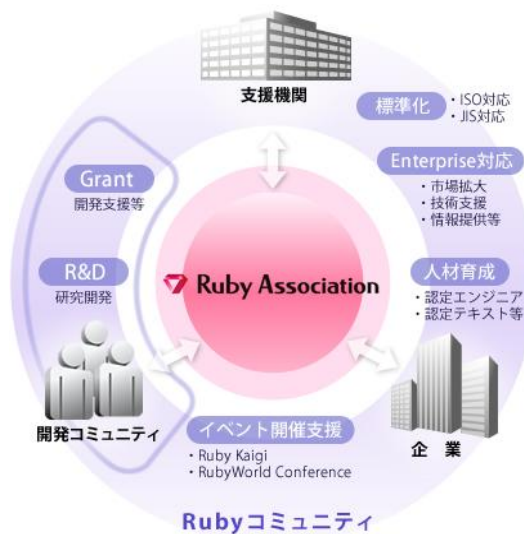
はじめに

2011年7月27日、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、プログラミング言語 Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的に設立しました。2011年度は、国内企業、公的機関の支援のもと組織体制を整備し、公募型開発支援プロジェクト、情報発信などの諸事業に取り組んで参りました。

今年度は、軽量 Ruby の開発成果公表と実利用への期待が高まり、また、言語仕様の国際標準規格（ISO）化が予定されるなど、Ruby の利用範囲は更に広がるものと思われまます。

こうした中で当財団は、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」の枠組みを実現することで、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2012年度も様々な事業に取り組まます。

Ruby Eco System



1 組織体制

1) 理事

現在は理事3名の体制ですが、後述する公益認定申請の段階で、法律要件に応じて理事構成の変更を検討します。

2) スタッフ

当面は常勤スタッフ1名の体制を継続します。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業3社及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業

公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

2012年度は、先ず2011年度の事業成果を検証し、より適切な実施方法を検討した上でプロジェクトを行います。

2) 情報発信事業

①Web 活用

(1) 利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘することで、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

また、協賛企業の事例は PDF 化、及びダウンロードを可能にすることで協賛企業にとっての特典とします。

(2) 技術情報の紹介

現在提供する「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」の精度向上と、関係技術のバージョンアップなどにも対応し続けることでの提供情報のメンテナンスに努めます。

また、Ruby をビジネス利用するエンジニアが交流できるサイト機能の提供も検討します。

②RubyWorld Conference 2012

2012 年 11 月 8 日（木）、9 日（金）に島根県松江市にて開催し、当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会によって準備、運営をします。従来同様に「Ruby Eco System（Ruby の持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Ruby の先進的な利用事例、最新の技術動向、言語仕様の標準化などの様々な情報を発信します。

なお、開催費用については、公的機関の補助金、企業協賛金のほか、当財団が 50 万円程度を負担します。

③ビジネスセミナー

RubyWorld Conference と同様に、Ruby ビジネスの中心地である東京、名古屋、大阪、島根、広島、福岡などで価値ある情報を提供するビジネスセミナーを開催します。2012 年は、4 月下旬又は 5 月上旬に東京で標準化をテーマとしたセミナーをはじめとして、2 カ月に 1 回のペースでの開催を予定します。開催においては有料セミナー化（但し、協賛企業は一部無料参加の特典あり）も検討します。

なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携してセミナーを開催する場合があります。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold」、又は「同 Silver」として認定します。現在、この試験は、合同会社 Ruby アソシエーションで実施していますが、2012 年度中に当財団に業務移管します。

4) 事業者認定事業

①Ruby アソシエーション認定システムインテグレータ制度

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する企業を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。この制度は、2012 年度から当財団にて実施します。

2012 年 2 月 1 日現在、認定企業は Gold 5 社、Silver 43 社です。2012 年度には、Gold 10 社、Silver 60 社となることを目指します。

②Ruby アソシエーション認定サポートサービス制度

2012 年度中の実施を予定しています。Ruby アソシエーション認定システムインテグレータ制度と同様に、Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する企業で、Ruby に関連するサポート事業を実施している場合に登録申請を行うことが出来ます。当財団は、条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

③Ruby アソシエーション認定クラウドサービス制度

2012 年度中の実施を予定しています。クラウドサービス事業者が自社サービスについて Ruby 開発で利用されているテストツールによって問題がないことを証明し、且つ、Ruby の開発環境および実行環境などの提供サービスに関する資料を提出し、当財団が審査の後、一定水準でのサービスの質が確保されていると認められるクラウドサービス事業者を認定します。

5) 認定事業者支援事業

当財団は、認定サポートサービス事業者に向けた障害対応（エスカレーション）サービスを実施します。これにより認定事業者のサポート事業が円滑に進み、より良い Ruby のビジネス環境を実現します。なお、当財団が実施する支援事業の対象範囲は、Ruby 及び周辺のライブラリ、フレームワークとします。なお、それらの直接の修正、プログラム開発、新規のサンプルコードの作成及び質問が具体的になっていないような相談の類は提供サービスの対象外です。

6) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、昨年の日本工業規格 (JIS) 化に続いて今年も国際標準規格 (ISO) 化が見込まれています。当財団では、ISO 化後のメンテナンスに関わることを検討しており、関係機関との調整を行います。当財団の役割としては、幅広く多くの方々の意見を標準規格に反映されるための、パブリックコメントの募集や公開 WG の開催などを検討しています。

7) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指し取り組む事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています（年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします）。また、協賛会員には様々な会員特典も設けています。

協賛会員区分

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (1) Platinum Sponsor | 5 口以上 (50 万円以上) |
| (2) Gold Sponsor | 2 口以上 (20 万円以上) |

(3) Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)
2012年度は、Platinum Sponsorとして7社、Gold Sponsorとして6社、また、Silver Sponsorとして40社のご賛同を見込んでいます。

8) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて寄付を募集いたします。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 独立行政法人 情報処理推進機構

標準維持事業の実施などに連携して取り組みます。

2) 松江市、島根県及び中国経済産業局

当財団は活動の拠点(主たる事務所)を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県及び中国経済産業局とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

3) 日本 OSS 推進フォーラム

これまでも同フォーラムは情報発信事業(特に利用事例の公開)に取り組まれており、このため当財団との連携に関して協議をしてきました。2012年度以降、情報を活用する方にとって有益な情報の提供を当財団と同フォーラムが連携することで実現します。

4) その他、関係機関

Rubyへの取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ① 一般社団法人 日本 Ruby の会
- ② 福岡 Ruby ビジネス拠点推進会議
- ③ その他、国内外の機関

4 公益認定申請

当財団は Ruby の普及、発展等を目指し公益性の高い事業に取り組みます。こうした中で、(1) 公益団体であることを対外的に明示する、(2) 税制上の優遇措置を得る、ことを目的に公益財団法人の認可に向けた申請手続きに取り組みます。

スケジュールは以下のとおりです。

2012年4月～5月	認定申請の調査、検討期間
6月	評議員会での意思決定、理事構成等の組織変更
7月	認定申請の準備
8月	認定申請(申請先は内閣府を予定)
2013年1月～3月	公益財団法人に認定、移行

5 その他関係資料

別添に、2012年度収支予算を掲載します。

第2号議案

2012年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 収支予算書 2012.3.31 単位:千円

	2011年度 決算見込	2012年度 予算
1 売上高		
1)Ruby技術者認定試験	0	0
2)事業者認定事業	0	1,250
3)その他事業収入	916	913
小計	916	2,163
2 特別利益(協賛金、寄附金)		
1)設立支援金	7,400	0
2)協賛金	0	7,700
3)寄附金	0	4,000
小計	7,400	11,700
3 売上原価		
1)Ruby技術者認定試験	0	0
2)事業者認定事業	0	425
3)その他	214	0
小計	214	425
4 その他、事業費用		
1)公募型開発プロジェクト	0	1,000
2)Web活用	0	1,500
3)RubyWorld Conference開催	0	500
4)ビジネスセミナー開催	0	600
小計	0	3,600
5 役員報酬		
小計	800	1,200
6 販売費及び一般管理費		
1)職員人件費	1,069	4,308
2)事務所賃借料	43	120
3)駐車場賃借料	0	72
4)旅費交通費(出張費、通勤費)	305	700
5)通信運搬費(電話代、郵便代)	68	120
6)消耗品費(事務用品他)	150	240
7)会議費	87	45
8)会場費	0	150
9)租税公課(固定資産税、印紙代)	12	100
10)手数料	571	60
11)雑費	0	120
小計	4,512	6,038
7 総収入	8,316	13,863
8 総支出	5,526	11,263
9 税引前当期純利益	2,790	2,600
10 法人税、住民税及び事業税	400	400
11 当期純利益	2,390	2,200
12 利益剰余金	2,390	4,590
※協賛企業数		
Platinum Sponsor (50万円)	0	7
Gold Sponsor (20万円)	0	12
Silver Sponsor (10万円)	0	18